

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

経口用セフェム系抗生物質製剤

日本薬局方 セフポドキシム プロキシセチル錠

セフポドキシムプロキシセチル錠100mg「サワイ」

日本薬局方 シロップ用セフポドキシム プロキシセチル

セフポドキシムプロキシセチルDS小児用5%「サワイ」

CEFPODOXIME PROXETIL

剤形	錠100mg：フィルムコーティング錠 DS小児用5%：ドライシロップ
製剤の規制区分	処方箋医薬品※ ※注意－医師等の処方箋により使用すること
規格・含量	錠100mg：1錠中日局セフポドキシム プロキシセチル100mg(力価)含有 DS小児用5%：1g中日局セフポドキシム プロキシセチル50mg(力価)含有
一般名	和名：セフポドキシム プロキシセチル 洋名：Cefpodoxime Proxetil
製造販売承認年月日 薬価基準収載 ・発売年月日	製造販売承認年月日：2013年12月3日(販売名変更) 薬価基準収載年月日：2014年6月20日(販売名変更) 発売年月日：2006年7月7日
開発・製造販売(輸入)・ 提携・販売会社名	製造販売元：沢井製薬株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	沢井製薬株式会社 医薬品情報センター TEL：0120-381-999、FAX：06-6394-7355 医療関係者向け総合情報サイト： https://med.sawai.co.jp/

本IFは2020年10月改訂の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ<https://www.pmda.go.jp/>にてご確認ください。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書(以下、添付文書と略す)がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会(以下、日病薬と略す)学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」(以下、IFと略す)の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること(e-IF)が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、(独)医薬品医療機器総合機構の医薬品情報提供ホームページ(<http://www.info.pmda.go.jp/>)から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公的サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体(図表は除く)で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。

- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別(内用剤、注射剤、外用剤)に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」(以下、「IF記載要領2013」と略す)により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体(PDF)から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

[IFの発行]

- ①「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ②上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果(臨床再評価)が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目次

I. 概要に関する項目	1	VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目	24
1. 開発の経緯	1	1. 警告内容とその理由	24
2. 製品の治療学的・製剤学的特性	1	2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)	24
II. 名称に関する項目	2	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由	24
1. 販売名	2	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由	24
2. 一般名	2	5. 慎重投与内容とその理由	24
3. 構造式又は示性式	2	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法	24
4. 分子式及び分子量	2	7. 相互作用	25
5. 化学名(命名法)	3	8. 副作用	25
6. 慣用名、別名、略号、記号番号	3	9. 高齢者への投与	27
7. CAS登録番号	3	10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与	27
III. 有効成分に関する項目	4	11. 小児等への投与	27
1. 物理化学的性質	4	12. 臨床検査結果に及ぼす影響	27
2. 有効成分の各種条件下における安定性	4	13. 過量投与	27
3. 有効成分の確認試験法	5	14. 適用上の注意	28
4. 有効成分の定量法	5	15. その他の注意	28
IV. 製剤に関する項目	6	16. その他	28
1. 剤形	6	IX. 非臨床試験に関する項目	29
2. 製剤の組成	7	1. 薬理試験	29
3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意	7	2. 毒性試験	29
4. 製剤の各種条件下における安定性	7	X. 管理的事項に関する項目	30
5. 調製法及び溶解後の安定性	9	1. 規制区分	30
6. 他剤との配合変化(物理化学的変化)	10	2. 有効期間又は使用期限	30
7. 溶出性	10	3. 貯法・保存条件	30
8. 生物学的試験法	12	4. 薬剤取扱い上の注意点	30
9. 製剤中の有効成分の確認試験法	13	5. 承認条件等	30
10. 製剤中の有効成分の定量法	13	6. 包装	31
11. 力価	13	7. 容器の材質	31
12. 混入する可能性のある夾雑物	13	8. 同一成分・同効薬	31
13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報	13	9. 国際誕生年月日	31
14. その他	13	10. 製造販売承認年月日及び承認番号	31
V. 治療に関する項目	14	11. 薬価基準収載年月日	31
1. 効能又は効果	14	12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容	32
2. 用法及び用量	14	13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容	32
3. 臨床成績	15	14. 再審査期間	32
VI. 薬効薬理に関する項目	17	15. 投薬期間制限医薬品に関する情報	32
1. 薬理学的に関連ある化合物又は化合物群	17	16. 各種コード	32
2. 薬理作用	17	17. 保険給付上の注意	32
VII. 薬物動態に関する項目	19	XI. 文献	33
1. 血中濃度の推移・測定法	19	1. 引用文献	33
2. 薬物速度論的パラメータ	21	2. その他の参考文献	33
3. 吸収	21	XII. 参考資料	34
4. 分布	21	1. 主な外国での発売状況	34
5. 代謝	22	2. 海外における臨床支援情報	34
6. 排泄	22	XIII. 備考	34
7. トランスポーターに関する情報	23	その他の関連資料	34
8. 透析等による除去率	23		

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

セフポドキシムプロキセチル錠100mg/DS小児用5%「サワイ」は、日局セフポドキシムプロキセチルを含有する経口用セフェム系抗生物質製剤である。

セフポドキシムプロキセチルは、広範囲抗菌スペクトルを示す第三世代のセファロスポリン系抗生物質で、経口投与可能なセフポドキシムのエステル系プロドラッグである。¹⁾

本剤は、後発医薬品として下記通知に基づき、規格及び試験方法を設定、安定性試験、生物学的同等性試験を実施し、承認を得て上市に至った。

	バナセファン錠100mg/DS 5% (旧販売名)
承認申請に際し準拠した通知名	平成11年4月8日 医薬発第481号
承認	2006年3月
上市	2006年7月

2014年6月に「医療用後発医薬品の承認申請にあたっての販売名の命名に関する留意事項について」(平成17年9月22日 薬食審査発第0922001号)に基づき、『セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」』及び『セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」』に販売名を変更した。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- 1) PTPシートまたは分包包装上に「抗生物質」の文字を記載している。
- 2) DS小児用5%は、わずかにオレンジ様の芳香がある。
- 3) 広範囲抗菌スペクトルを示す第三世代のセファロスポリン系抗生物質である。¹⁾
- 4) 経口投与可能なセフポドキシムのエステル系プロドラッグである。¹⁾
- 5) 各種細菌の産生するβ-ラクタマーゼに安定である。¹⁾
- 6) 重大な副作用として、ショック、アナフィラキシー、中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、偽膜性大腸炎、急性腎障害、間質性肺炎、PIE症候群、肝機能障害、黄疸、血小板減少が報告されている(頻度不明)。また、他のセフェム系抗生物質で、汎血球減少症、無顆粒球症、溶血性貧血、痙攣が報告されている。

II. 名称に関する項目

II. 名称に関する項目

1. 販売名

1) 和名

セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

2) 洋名

CEFPODOXIME PROXETIL

3) 名称の由来

通知「平成17年9月22日 薬食審査発第0922001号」に基づき命名した。

2. 一般名

1) 和名(命名法)

セフポドキシム プロキセチル(JAN)

2) 洋名(命名法)

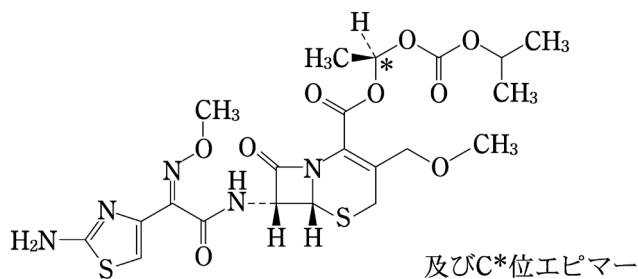
Cefpodoxime Proxetil(JAN)

Cefpodoxime(INN)

3) ステム

cef- : cephalosporanic acid系の抗生物質

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_{21}H_{27}N_5O_9S_2$

分子量 : 557.60

5. 化学名(命名法)
(1*RS*)-1-[(1-Methylethoxy)carbonyloxy]ethyl(6*R*,7*R*)-7-[(*Z*)-2-(2-aminothiazol-4-yl)-2-(methoxyimino)acetylamino]-3-methoxymethyl-8-oxo-5-thia-1-azabicyclo[4. 2. 0]oct-2-ene-2-carboxylate
6. 慣用名、別名、略号、記号番号
略号 : CPDX-PR
7. CAS登録番号
87239-81-4 [Cefpodoxime Proxetil]
80210-62-4 [Cefpodoxime]

Ⅲ. 有効成分に関する項目

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

1) 外観・性状

白色～淡褐白色の粉末である。

味は苦い。¹⁾

2) 溶解性

アセトニトリル、メタノール又はクロロホルムに極めて溶けやすく、エタノール(99.5)に溶けやすく、水に極めて溶けにくい。

¹⁾

溶媒	本品 1 gを溶解するための溶媒量
アセトニトリル	1 mL以下
メタノール	1 mL以下
クロロホルム	1 mL以下
エタノール(99.5)	約 2 mL
ジエチルエーテル	約150mL

溶解度²⁾ : pH1.2 : 11.1mg/mL、pH4.0 : 0.24mg/mL、pH6.8 : 0.20mg/mL、水 : 0.15mg/mL

3) 吸湿性

水分 : 2.5%以下(0.5g、容量滴定法、直接滴定)

4) 融点(分解点)、沸点、凝固点

該当資料なし

5) 酸塩基解離定数

pKa=3.20±0.13((チアゾール環)アミノ基、吸光度法)²⁾

6) 分配係数

該当資料なし

7) その他の主な示性値

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$: +24.0～+31.4° (脱水物に換算したもの0.1g、アセトニトリル、20mL、100mm)

比吸光度 $E_{1\%}^{1\text{cm}}$ (234nm) : 約338[本品のアセトニトリル溶液(3→200000)]¹⁾

2. 有効成分の各種条件下における安定性

水²⁾ : 25℃、5時間で4%分解する。

液性(pH)²⁾ : pH1.2、pH4.0及びpH6.8において、25℃、5時間でそれぞれ2%、2%及び10%分解する。

3. 有効成分の確認試験法

日局「セフポドキシム プロキセチル」の確認試験に準ずる。

- 1) 紫外可視吸光度測定法
- 2) 赤外吸収スペクトル測定法
- 3) 核磁気共鳴スペクトル測定法





4. 有効成分の定量法

日局「セフポドキシム プロキセチル」の定量法に準ずる。(液体クロマトグラフィー)

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

1) 剤形の区別、外観及び性状

品名	剤形	表 (直径mm)	裏 (重量mg)	側面 (厚さmm)	性状
セフポドキシム プロキセチル錠 100mg「サワイ」	フィルム コーティン グ錠	 8.6	 約230	 4.5	白色～微黄白色
セフポドキシム プロキセチル DS小児用5% 「サワイ」	ドライ シロップ				赤みのだいたい色～だ いたい色の粉末を含む微細 な粒子でわずかにオレン ジ様の芳香がある。 水懸濁液(1→4)はpH 4～6である。

2) 製剤の物性

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

製剤均一性：日局セフポドキシム プロキセチル錠 製剤均一性の項により含量均一性試験を行うとき、規格に適合する。

溶出性：日局セフポドキシム プロキセチル錠 溶出性の項により試験を行うとき、規格に適合する。(水、45分：70%以上)

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

製剤均一性(分包品)：日局シロップ用セフポドキシム プロキセチル 製剤均一性試験法の項により含量均一性試験を行うとき、規格に適合する。

溶出性：日局シロップ用セフポドキシム プロキセチル 溶出性の項により試験を行うとき、規格に適合する。(水、15分：85%以上)

安息角：30° (実測値)

3) 識別コード

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

SW-581

4) pH、浸透圧比、粘度、比重、無菌の旨及び安定なpH域等

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

水懸濁液(1→4)はpH4～6である。

2. 製剤の組成

1) 有効成分(活性成分)の含量

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

1錠中に日局セフポドキシム プロキセチル100mg(力価)を含有する。

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

1g中に日局セフポドキシム プロキセチル50mg(力価)を含有する。

2) 添加物

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

添加物として、カルナウバロウ、カルメロースCa、酸化チタン、ステアリン酸Mg、タルク、乳糖、ヒドロキシプロピルセルロース、ヒプロメロース、ラウリル硫酸Naを含有する。

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

添加物として、アスパルテーム(L-フェニルアラニン化合物)、カルメロースCa、カルメロースNa、クエン酸、L-グルタミン酸Na、軽質無水ケイ酸、三二酸化鉄、タルク、白糖、ヒドロキシプロピルセルロース、香料を含有する。

3) その他

該当資料なし

3. 懸濁剤、乳剤の分散性に対する注意

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

投与時：使用時十分に振り混ぜること。

4. 製剤の各種条件下における安定性

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

1) PTP包装品の安定性(加速試験)³⁾

セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」をPTP包装(ポリ塩化ビニルフィルム、アルミ箔)した後、ピロー包装(アルミ袋、乾燥剤入り)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保存条件	イニシャル	40°C75%RH・遮光 6ヵ月
性状	白色～微黄白色のフィルムコーティング錠であった	同左
確認試験	規格に適合	同左
溶出試験	規格に適合	同左
力価試験※	100.2	98.8

※：表示力価に対する含有率(%)

IV. 製剤に関する項目

2) 無包装下の安定性試験⁴⁾

セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、安定性試験を行った。

その結果、以下の結果が得られた。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3 ヶ月)	湿度 (25°C 75%RH 3 ヶ月)	光 (総照射量 60万lx・hr)	なりゆき (室温散光下 3 ヶ月)
性 状	白色のフィルムコーティング錠	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
硬 度 (kg)	22.1	20.6	19.2	21.4	21.4
溶 出 試 験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
力 価 試 験 [※]	100.0	99.0	98.5	97.5	100.7

日本病院薬剤師会編「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報」の基準に準じて試験を行っている。

※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

1) 分包装品の安定性(加速試験)⁵⁾

セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」を分包装(複合フィルム)した後、ピロー包装(アルミ袋、乾燥剤入り)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保 存 条 件	イニシャル	40°C 75%RH・遮光 6 ヶ月
性 状	赤みのだいたい色の粉末を含む微細な粒子でわずかに芳香があった	同左
確 認 試 験	規格に適合	同左
溶 出 試 験	規格に適合	同左
力 価 試 験 [※]	98.2	96.6

※：表示力価に対する含有率(%)

2) バラ包装品の安定性(加速試験)⁵⁾

セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」をバラ包装(ポリエチレン瓶、乾燥剤入り)したものについて、安定性試験を行った。

その結果、規格に適合した。

保 存 条 件	イニシャル	40°C 75%RH・遮光 6 ヶ月
性 状	赤みのだいたい色の粉末を含む微細な粒子でわずかに芳香があった	同左
確 認 試 験	規格に適合	同左
溶 出 試 験	規格に適合	同左
力 価 試 験 [※]	98.2	96.5

※：表示力価に対する含有率(%)

3) 無包装下の安定性試験⁶⁾

セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」の無包装の製剤について、各種条件下で保存し、安定性試験を行った。

その結果、湿度及び光の条件下で性状変化及び力価低下、なりゆきの条件下で力価低下が観察された。

保存条件	イニシャル	温度 (40°C 3 ヶ月)	湿度 (25°C75%RH 3 ヶ月)	光 (総照射量 60万lx・hr)	なりゆき (室温散光下 3 ヶ月)
性状	赤みのだいたい色の粉末を含む微細な粒子でわずかに芳香があった	変化なし	色が濃くなった	色が濃くなった	変化なし
溶出試験	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし	問題なし
力価試験※	100.0	97.5	92.1	91.4	94.6

日本病院薬剤師会編「錠剤・カプセル剤の無包装状態での安定性情報」の基準に準じて試験を行っている。
※：イニシャルを100としたときの含有率(%)

5. 調製法及び溶解後の安定性

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

- ・用時懸濁して経口投与する。
- ・保存時：懸濁液に調製後は冷所に保存し、2週間以内に使用すること。
- ・懸濁後の安定性⁷⁾

セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」を水に懸濁(本剤1gを精密に量り、水4mLを加え懸濁)したものについて、40°C暗所、25°C暗所、5°C暗所の各保存条件下で14日間保存し、安定性試験を行った。

その結果、40°C暗所の条件下で性状の変化、力価の低下が認められた。

試験項目	保存条件	結果			
		イニシャル	3日後	7日後	14日後
性状	40°C暗所	橙色懸濁液	わずかに暗橙色	暗橙色	暗橙色
pH		4.5	4.4	4.3	4.3
力価試験※		97.4%	92.7%	87.1%	78.2%
性状	25°C暗所	橙色懸濁液	変化なし	変化なし	変化なし
pH		4.5	4.4	4.4	4.4
力価試験※		97.4%	97.3%	95.3%	96.4%
性状	5°C暗所	橙色懸濁液	変化なし	変化なし	変化なし
pH		4.5	4.5	4.5	4.5
力価試験※		97.4%	97.9%	96.2%	98.4%

※：表示力価に対する含有率(%)

- ・XIII. 備考「配合変化試験成績」参照⁸⁾

IV. 製剤に関する項目

6. 他剤との配合変化(物理化学的变化).....

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

XIII. 備考「配合変化試験成績」参照⁸⁾

＜pH変動試験結果＞⁸⁾

含量/容量	試料pH	外 観	(A)0.1mol/L HCl (B)0.1mol/L NaOH	最終pH又は 変化点pH	移動 指数	変化 所見
50mg(力価) / 1g	4.70 (2.5g/水 5mL)	淡桃色の 懸濁液	(A) 5 mL	2.79	1.91	変化 なし
			(B) 5 mL	10.40	5.70	変化 なし

7. 溶出性.....

本剤は、日本薬局方に定められた溶出規格に適合していることが確認されている。

＜溶出挙動における同等性及び類似性＞

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」^{9,10)}

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」：平成13年 5月31日 医薬 審発第786号	
試験条件	パドル法	50rpm(pH1.2、5.0、6.8、水)、100rpm(pH5.0)
試験回数	12ベッセル	

【結果及び考察】

＜50rpm：pH1.2＞

標準製剤の平均溶出率が60% (10分) 及び85% (15分) 付近の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

＜50rpm：pH5.0＞

標準製剤の平均溶出率が40% (10分) 及び85% (90分) 付近の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

＜50rpm：pH6.8＞

標準製剤が規定された試験時間(360分)における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す時点(10分)及び規定された試験時間(360分)において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±8%及び±15%の範囲にあった。

＜50rpm：水＞

標準製剤の平均溶出率が40% (10分) 及び85% (90分) 付近の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

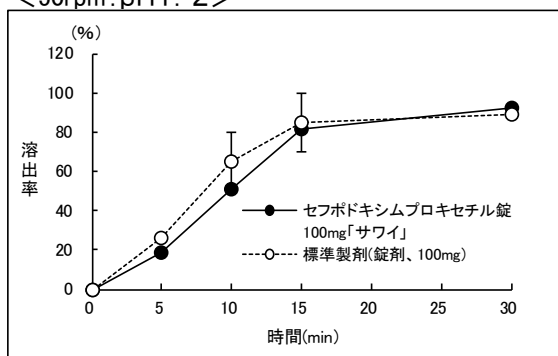
＜100rpm：pH5.0＞

標準製剤の平均溶出率が40% (10分) 及び85% (90分) 付近の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

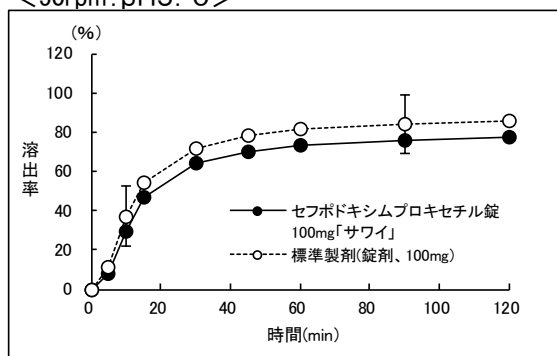
以上の結果より、両製剤の溶出挙動は同等であると判断した。

(溶出曲線)

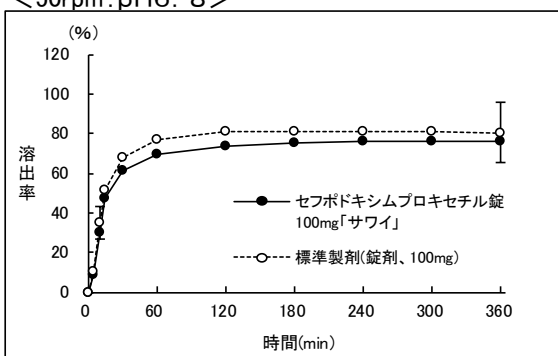
<50rpm:pH1.2>



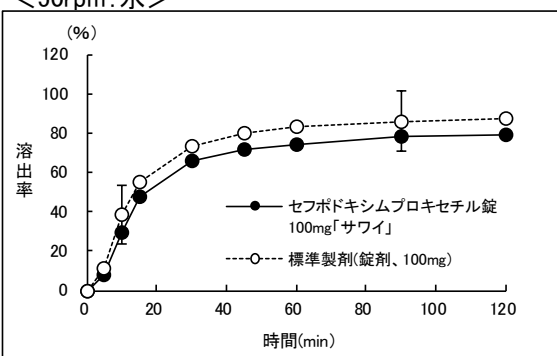
<50rpm:pH5.0>



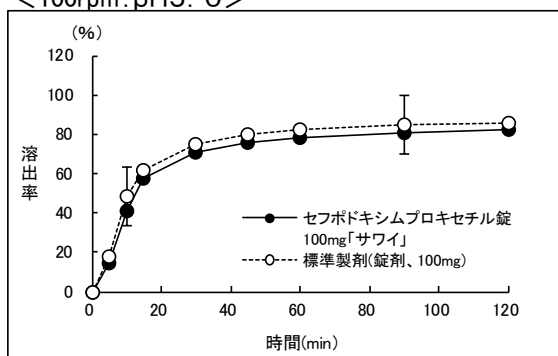
<50rpm:pH6.8>



<50rpm:水>



<100rpm:pH5.0>



([] : 判定基準の適合範囲)

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」^{9,11)}

通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」：平成13年5月31日 医薬審発第786号	
試験条件	パドル法	50rpm(pH1.2、5.0、6.8、水)、100rpm(pH6.8)
試験回数	12ベッセル	

【結果及び考察】

<50rpm : pH1.2>

両製剤とも15分以内に平均85%以上溶出した。

<50rpm : pH5.0>

15分において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

<50rpm : pH6.8>

標準製剤の平均溶出率が60%(5分)及び85%(15分)付近の2時点において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

IV. 製剤に関する項目

<50rpm：水>

15分において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

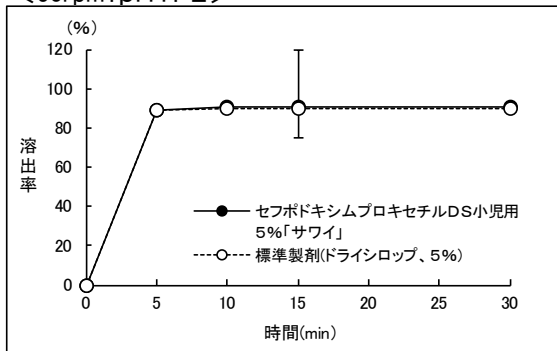
<100rpm：pH6.8>

15分において、試験製剤の平均溶出率は標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあった。

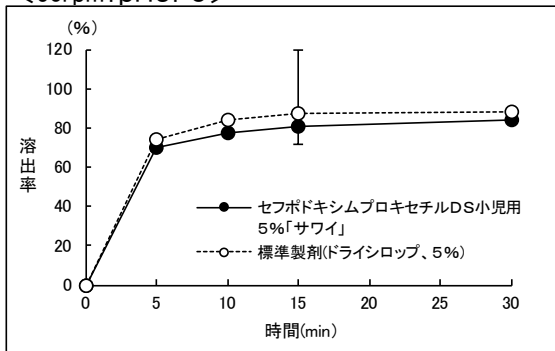
以上の結果より、両製剤の溶出挙動は同等であると判断した。

(溶出曲線)

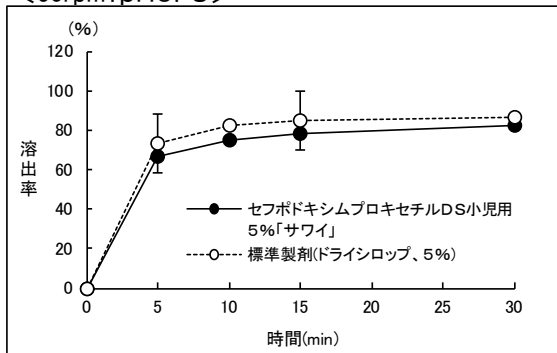
<50rpm:pH1.2>



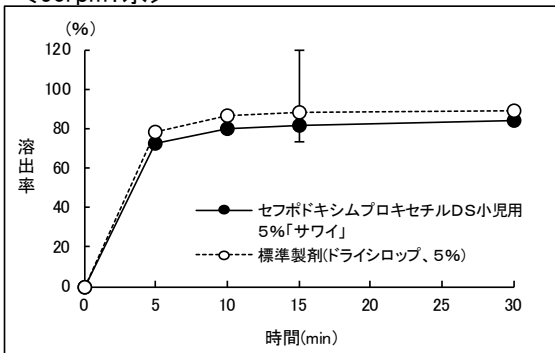
<50rpm:pH5.0>



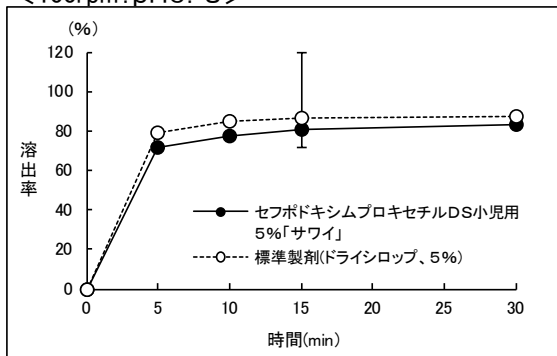
<50rpm:pH6.8>



<50rpm：水>



<100rpm:pH6.8>



([] : 判定基準の適合範囲)

8. 生物学的試験法

本品の力価は、円筒平板法により、試験菌として*Escherichia coli* NIHJを用いて測定する。

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

日局「セフポドキシム プロキセチル錠」の確認試験に準ずる。(紫外可視吸光度測定法)

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

日局「シロップ用セフポドキシム プロキセチル」の確認試験に準ずる。(紫外可視吸光度測定法)

10. 製剤中の有効成分の定量法

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

日局「セフポドキシム プロキセチル錠」の定量法に準ずる。(液体クロマトグラフィー)

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

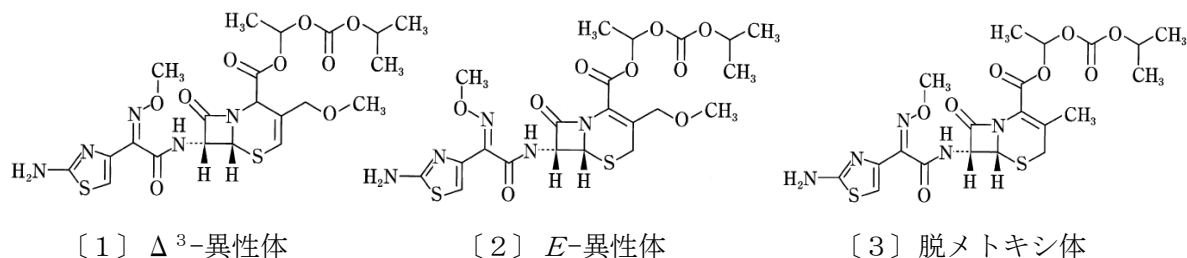
日局「シロップ用セフポドキシム プロキセチル」の力価試験に準ずる。
(液体クロマトグラフィー)

11. 力価

セフポドキシム(C₁₅H₁₇N₅O₆S₂:427.46)としての量を質量(力価)で示す。

12. 混入する可能性のある夾雑物

混在が予想される類縁物質には次のようなものがある。¹⁾



13. 注意が必要な容器・外観が特殊な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

該当資料なし

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

<適応菌種>

セフポドキシムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、淋菌、モラクセラ(ブランハマラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌、ペプトストレプトコッカス属

<適応症>

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、乳腺炎、肛門周囲膿瘍、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、慢性呼吸器病変の二次感染、膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、バルトリン腺炎、中耳炎、副鼻腔炎、歯周組織炎、歯冠周囲炎、顎炎

<効能又は効果に関連する使用上の注意>

咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎への使用にあたっては、「抗微生物薬適正使用の手引き」¹²⁾を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上で、本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

<適応菌種>

セフポドキシムに感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、モラクセラ(ブランハマラ)・カタラーリス、大腸菌、シトロバクター属、クレブシエラ属、エンテロバクター属、プロテウス属、プロビデンシア属、インフルエンザ菌

<適応症>

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、リンパ管・リンパ節炎、慢性膿皮症、咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、肺炎、膀胱炎、腎盂腎炎、中耳炎、副鼻腔炎、猩紅熱

<効能又は効果に関連する使用上の注意>

咽頭・喉頭炎、扁桃炎(扁桃周囲炎、扁桃周囲膿瘍を含む)、急性気管支炎、中耳炎、副鼻腔炎への使用にあたっては、「抗微生物薬適正使用の手引き」¹²⁾を参照し、抗菌薬投与の必要性を判断した上で、本剤の投与が適切と判断される場合に投与すること。

2. 用法及び用量

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

通常、成人にはセフポドキシム プロキセチルとして1回100mg(力価)を1日2回食後経口投与する。

なお、年齢及び症状に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症例には、1回200mg(力価)を1日2回食後経口投与する。

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

通常、幼小児に対しては、セフポドキシム プロキセチルとして1回3mg(力価)/kgを1日2～3回、用時懸濁して経口投与する。

なお、年齢、体重、症状等に応じて適宜増減するが、重症又は効果不十分と思われる症例には、1回4.5mg(力価)/kgを1日3回経口投与する。

<用法及び用量に関連する使用上の注意>

- 1) 高度の腎障害のある患者には、投与量・投与間隔の適切な調節をするなど慎重に投与すること(「慎重投与」の項参照)。
- 2) 本剤の使用にあたっては、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の投与にとどめること。[耐性菌の発現等を防ぐ。]

3. 臨床成績

1) 臨床データパッケージ

該当しない

2) 臨床効果

該当資料なし

3) 臨床薬理試験

該当資料なし

4) 探索的試験

該当資料なし

5) 検証的試験

(1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

(2) 比較試験

該当資料なし

(3) 安全性試験

該当資料なし

(4) 患者・病態別試験

該当資料なし

6) 治療的使用

(1) 使用成績調査・特定使用成績調査(特別調査)・製造販売後臨床試験(市販後臨床試験)

該当資料なし

V. 治療に関する項目

- (2)承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要
該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連ある化合物又は化合物群

セフジニル、セフテラム ピボキシル等

2. 薬理作用

セフポドキシム プロキセチルの薬理作用について以下のとおり報告されている。

1) 作用部位・作用機序

セフェム系抗生物質のエステル型プロドラッグである。腸管壁で代謝され、セフポドキシムとなって抗菌力を現す。細菌細胞壁の合成阻害が殺菌作用の主な機序である。作用点は菌種により異なるが、ペニシリン結合蛋白(PBP)の1, 3に親和性が高い。セフポドキシムはグラム陽性菌及びグラム陰性菌に対して広汎な抗菌スペクトルを有し、特にグラム陽性菌ではブドウ球菌属とレンサ球菌属、グラム陰性菌では大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、淋菌、インフルエンザ菌に対して優れた抗菌力を発揮する。また嫌気性菌では、ペプトストレプトコッカス属に対し優れた抗菌力を示す。生体防御機構と協力して殺菌作用を発揮する。各種細菌の産生するβ-ラクタマーゼに安定で、β-ラクタマーゼ産生株に対しても強い抗菌力を有する。¹⁾

2) 薬効を裏付ける試験成績

標準菌に対するMICと臨床分離菌に対するMIC₈₀、MIC₆₀(μg/mL)¹³⁾

感受性の高い菌	標準菌の MIC	臨床分離菌の MIC ₈₀	臨床分離菌の MIC ₆₀
<i>Moraxella [B] catarrhalis</i>		3. 13	0. 78
<i>Clostridium perfringens</i> ^{*1}	0. 05~0. 78	1. 56	0. 20
<i>Corynebacterium diphtheriae</i> ^{*1}	0. 10~3. 13	1. 56 (spp.)	0. 39**
<i>Escherichia coli</i>	0. 20~0. 78	0. 39	0. 39
<i>Fusobacterium varium</i> ^{*1}	≤0. 025		
<i>Haemophilus influenzae</i>	0. 025~0. 05	0. 10	0. 10
<i>Klebsiella oxytoca</i>	0. 025~3. 13	0. 20	0. 10**
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	≤0. 01~0. 20	0. 20	0. 10**
<i>Micrococcus luteus</i> ^{*1}	0. 05~0. 10	3. 13 (spp.)	0. 20**
<i>Neisseria gonorrhoeae</i> ^{*2}	≤0. 006		
<i>Neisseria meningitidis</i> ^{*1}	≤0. 006		
<i>Peptostreptococcus</i> ^{*2}		1. 56	0. 39**
<i>Proteus mirabilis</i>	0. 025~0. 78	0. 05	0. 10
<i>Proteus vulgaris</i>	0. 025~6. 25	0. 39	0. 20
<i>Providencia alcalifaciens</i>	0. 012	<0. 05	<0. 05**
<i>Providencia rettgeri</i>	≤0. 006~0. 02	0. 78	0. 20
<i>Salmonella enteritidis</i> ^{*1}	0. 10		
<i>Salmonella paratyphi</i> ^{*1}	0. 025~0. 10		
<i>Salmonella typhi</i> ^{*1}	0. 05~0. 39		
<i>Shigella dysenteriae</i> ^{*1}	0. 10~0. 20		
<i>Streptococcus pneumoniae</i>	0. 012~0. 025	≤0. 05	≤0. 05
<i>Streptococcus pyogenes</i>	≤0. 006~0. 012	≤0. 05	≤0. 05

※1：承認適応外菌種(錠, DS)、※2：承認適応外菌種(DS)、**：MIC₅₀

VI. 薬効薬理に関する項目

中程度の感受性を示す菌	標準菌の MIC	臨床分離菌の MIC ₈₀	臨床分離菌の MIC ₆₀
<i>Bacteroides vulgatus</i> [※]	0.39～6.25		
<i>Citrobacter</i>	1.56～3.13	25	3.13
<i>Clostridium tetani</i> [※]	0.10～3.13		
<i>Enterobacter aerogenes</i>	0.78～1.56	12.5 (spp.)	1.56
<i>Enterobacter cloacae</i>	0.39～1.56	12.5 (spp.)	1.56
<i>Legionella pneumophila</i> [※]	3.13		
<i>Morganella morganii</i> [※]	≤0.01～0.39	12.5	1.56
<i>Peptococcus</i> [※]	≤0.025～1.56	6.25	0.39 ^{**}
<i>Burkholderia cepacia</i> [※]	1.56～25		
<i>Serratia marcescens</i> [※]	0.20～0.78	100	12.5 ^{**}
<i>Staphylococcus aureus</i>	1.56～3.13	6.25	3.13
<i>Staphylococcus epidermidis</i>	0.025～0.78	12.5	3.13
<i>Yersinia enterocolitica</i> [※]	1.56		
感受性の低い菌			
<i>Acinetobacter</i> [※]	6.25～25		
<i>Bacillus anthracis</i> [※]	6.25～25	25 (spp.)	6.25 ^{**}
<i>Bacteroides fragilis</i> [※]	3.13～>100	50	6.25 ^{**}
<i>Clostridium difficile</i> [※]	3.13～100		
感受性の無い菌			
<i>Enterococcus faecalis</i> [※]	>100	>100	>100
<i>Pseudomonas aeruginosa</i> [※]	50～>100	>100	>100
<i>Stenotrophomonas maltophilia</i> [※]	>100	>100	>100
<i>Staphylococcus aureus</i> (MRSA) [※]		>100	>100

※：承認適応外菌種(錠, DS)、**：MIC₅₀

3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

セフポドキシム プロキシセチル錠剤の薬物動態について以下のとおり報告されている。

1. 血中濃度の推移・測定法

1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

2) 最高血中濃度到達時間

VII. -1. -3) 参照

3) 臨床試験で確認された血中濃度

●セフポドキシムプロキシセチル錠100mg「サワイ」^{9,14)}

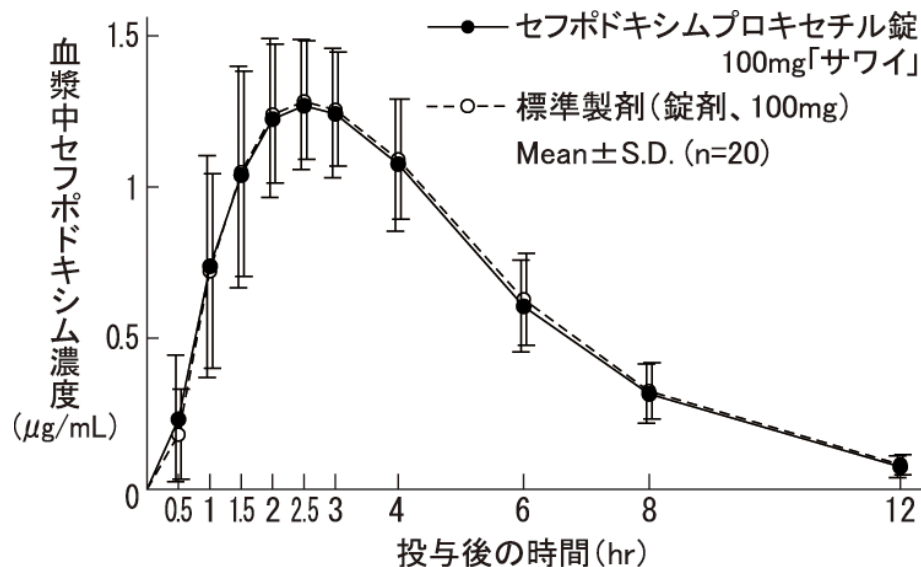
通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」： 平成13年5月31日 医薬審発第786号
採血時点	0、0.5、1、1.5、2、2.5、3、4、6、8、12hr
休薬期間	7日間
測定方法	高速液体クロマトグラフィー

セフポドキシムプロキシセチル錠100mg「サワイ」と標準製剤を健康成人男子にそれぞれ1錠〔セフポドキシム プロキシセチルとして100mg(力価)〕空腹時単回経口投与(クロスオーバー法)し、血漿中セフポドキシム濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

各製剤1錠投与時の薬物動態パラメータ

	Cmax ($\mu\text{g/mL}$)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)	AUC _{0-12hr} ($\mu\text{g}\cdot\text{hr/mL}$)
セフポドキシム プロキシセチル錠100mg「サワイ」	1.32 \pm 0.22	2.4 \pm 0.6	2.1 \pm 0.2	7.12 \pm 1.18
標準製剤(錠剤、100mg)	1.33 \pm 0.19	2.4 \pm 0.6	2.1 \pm 0.2	7.23 \pm 1.11

(Mean \pm S.D.)



VII. 薬物動態に関する項目

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」^{9, 15)}

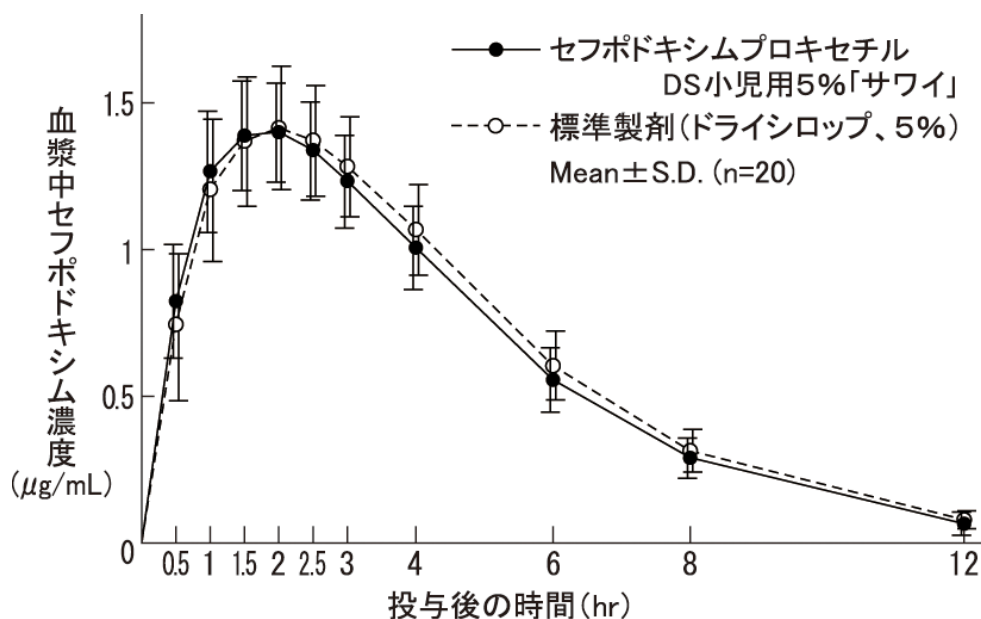
通知等	「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」： 平成13年5月31日 医薬審発第786号
採血時点	0、0.5、1、1.5、2、2.5、3、4、6、8、12hr
休薬期間	7日間
測定方法	高速液体クロマトグラフィー

セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」と標準製剤を健康成人男子にそれぞれ2g〔セフポドキシム プロキセチルとして100mg(力価)〕空腹時単回経口投与(クロスオーバー法)し、血漿中セフポドキシム濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された。

各製剤2g投与時の薬物動態パラメータ

	Cmax ($\mu\text{g/mL}$)	Tmax (hr)	T _{1/2} (hr)	AUC _{0-12hr} ($\mu\text{g}\cdot\text{hr/mL}$)
セフポドキシム プロキセチルDS 小児用5%「サワイ」	1.41 \pm 0.19	1.9 \pm 0.3	2.1 \pm 0.2	7.62 \pm 0.97
標準製剤 (ドライシロップ、5%)	1.42 \pm 0.21	2.1 \pm 0.4	2.1 \pm 0.2	7.90 \pm 1.03

(Mean \pm S.D.)



血漿中濃度ならびにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

4) 中毒域

該当資料なし

5) 食事・併用薬の影響

VIII. -7. 参照

空腹時より軽食後投与のほうが吸収は良好である。¹⁾

6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

1) 解析方法

該当資料なし

2) 吸収速度定数

該当資料なし

3) バイオアベイラビリティ

空腹時のバイオアベイラビリティは約50%である。¹⁶⁾

4) 消失速度定数

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」を健康成人男子に1錠〔セフポドキシム プロキセチルとして100mg(力価)〕空腹時単回経口投与した場合のセフポドキシムの消失速度定数^{9, 14)}

$$0.339 \pm 0.028 \text{hr}^{-1}$$

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」を健康成人男子に2g〔セフポドキシムプロキセチルとして100mg(力価)〕空腹時単回経口投与した場合のセフポドキシムの消失速度定数^{9, 15)}

$$0.335 \pm 0.026 \text{hr}^{-1}$$

5) クリアランス

該当資料なし

6) 分布容積

該当資料なし

7) 血漿蛋白結合率

血清蛋白結合率は約30%である。¹⁾

3. 吸収

経口投与後、腸管より吸収され、腸管のエステラーゼにより速やかに加水分解され、セフポドキシムとして分布する。¹⁾

4. 分布

1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

2) 血液—胎盤関門通過性

該当資料なし

3) 乳汁への移行性

母乳中へ移行する。

4) 髄液への移行性

該当資料なし

5) その他の組織への移行性

扁桃組織

セフポドキシム プロキセチルのフィルムコーティング錠100mgの単回経口投与では組織中薬物濃度は4時間で0.24 μ g/g, tissue、7時間で0.09 μ g/g, tissueであった。¹⁾

5. 代謝

1) 代謝部位及び代謝経路

腸管のエステラーゼにより速やかに加水分解される。¹⁾

2) 代謝に関与する酵素(CYP450等)の分子種

該当資料なし

3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

4) 代謝物の活性の有無及び比率

腸管壁で代謝され、セフポドキシムとなって抗菌力を現す。¹⁾

5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

VII. -1. -3) 及びVII. -2. -4) 参照

6. 排泄

1) 排泄部位及び経路

100mg及び200mg経口投与時に、24時間までの尿中排泄率は45%、51%であった。¹⁾

2) 排泄率

VII. -6. -1) 参照

3) 排泄速度

VII. -6. -1) 参照

7. トランスポーターに関する情報.....
該当資料なし

8. 透析等による除去率.....
投与量のおよそ23%が3時間の標準的な血液透析によって取り除かれる。¹⁷⁾

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

1. 警告内容とその理由……………
該当しない

2. 禁忌内容とその理由(原則禁忌を含む)……………

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【原則禁忌】(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)
セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由……………
V. -1. 参照

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由……………
V. -2. 参照

5. 慎重投与内容とその理由……………

慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
1) ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
2) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体質を有する患者
3) 高度の腎障害のある患者〔本剤は腎排泄型の抗生物質のため排泄遅延が起こる。〕(「用法及び用量に関連する使用上の注意」の項参照)
〔錠100mg〕
4) 経口摂取の不良な患者又は非経口栄養の患者、全身状態の悪い患者〔ビタミンK欠乏症状があらわれることがあるので観察を十分に行うこと。〕
5) 高齢者(「高齢者への投与」の項参照)
〔DS小児用5%〕
4) 経口摂取の不良な患者又は非経口栄養の患者、高齢者、全身状態の悪い患者〔ビタミンK欠乏症状があらわれることがあるので観察を十分に行うこと。〕

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法……………

重要な基本的注意
ショックがあらわれるおそれがあるので、十分な問診を行うこと。

7. 相互作用

1) 併用禁忌とその理由

該当しない

2) 併用注意とその理由

併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アルミニウム又はマグネシウム含有の制酸剤	本剤の効果を減弱させることがあるので、同時に服用させないなど慎重に投与すること。	機序は不明であるが、本剤の吸収が阻害されるとの報告がある。

8. 副作用

1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

2) 重大な副作用と初期症状

1) 重大な副作用(頻度不明)

- (1) **ショック、アナフィラキシー**：ショック、アナフィラキシー(血圧低下、不快感、口内異常感、喘鳴、眩暈、便意、耳鳴、発汗、発疹等)を起こすことがあるので観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2) **中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群**：中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis：TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)があらわれることがあるので観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (3) **偽膜性大腸炎**：偽膜性大腸炎等の血便を伴う重篤な大腸炎(初期症状：腹痛、頻回の下痢)があらわれることがあるので観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (4) **急性腎障害**：急性腎障害等の重篤な腎障害があらわれることがあるので、定期的に検査を行うなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (5) **間質性肺炎、PIE症候群**：発熱、咳嗽、呼吸困難、胸部X線異常、好酸球増多等を伴う間質性肺炎、PIE症候群があらわれることがあるので、このような症状があらわれた場合には直ちに投与を中止し、副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。
- (6) **肝機能障害、黄疸**：AST(GOT)、ALT(GPT)、 γ -GTP上昇等の肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し適切な処置を行うこと。
- (7) **血小板減少**：血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し適切な処置を行うこと。

2) 重大な副作用(類薬)

- (1) **汎血球減少症、無顆粒球症、溶血性貧血**：他のセフェム系抗生物質で、汎血球減少症、無顆粒球症、溶血性貧血があらわれるとの報告がある。
- (2) **痙攣**：他のセフェム系抗生物質で、腎不全の患者に大量投与すると痙攣等の神経症状を起こすとの報告がある。

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

3) その他の副作用

3) その他の副作用		頻度不明
過 敏 症 ^{注)}		発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発熱、リンパ腺腫脹、関節痛
血 液		好酸球増多、血小板減少、血小板増多[DS小児用5%]、顆粒球減少
肝 臓		AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇、Al-P上昇、LDH上昇、肝機能障害
腎 臓		BUN上昇、血中クレアチニン上昇、血尿
消 化 器		下痢、胃部不快感、悪心・嘔吐、軟便、胃痛、腹痛、食欲不振、便秘
菌 交 代 症		口内炎、カンジダ症
ビ タ ミ ン 欠 乏 症		ビタミンK欠乏症状(低プロトロンビン血症、出血傾向等)、ビタミンB群欠乏症状(舌炎、口内炎、食欲不振、神経炎等)
そ の 他		めまい、頭痛、浮腫、しびれ感

注) 投与を中止し適切な処置を行うこと。

4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

5) 基礎疾患、合併症、重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

【禁忌】(次の患者には投与しないこと)
本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【原則禁忌】(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること)
セフェム系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者

慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)
1) ペニシリン系抗生物質に対し過敏症の既往歴のある患者
2) 本人又は両親、兄弟に気管支喘息、発疹、蕁麻疹等のアレルギー症状を起こしやすい体質を有する患者

重要な基本的注意
ショックがあらわれるおそれがあるので、十分な問診を行うこと。

副作用	
1) 重大な副作用(頻度不明)	
(1) ショック、アナフィラキシー：ショック、アナフィラキシー(血圧低下、不快感、口内異常感、喘鳴、眩暈、便意、耳鳴、発汗、発疹等)を起こすことがあるので観察を十分に行い、異常が認められた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。	
3) その他の副作用	
	頻度不明
過敏症 ^{注)}	発疹、蕁麻疹、紅斑、そう痒、発熱、リンパ腺腫脹、関節痛
注) 投与を中止し適切な処置を行うこと。	

9. 高齢者への投与

[錠100mg]
 高齢者には、次の点に注意し、用量並びに投与間隔に留意するなど患者の状態を観察しながら慎重に投与すること。
 1) 高齢者では生理機能が低下していることが多く副作用が発現しやすい。
 2) 高齢者ではビタミンK欠乏による出血傾向があらわれることがある。

10. 妊婦、産婦、授乳婦等への投与

[錠100mg]
 1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。[妊娠中の投与に関する安全性は確立していない。]
 2) 投薬中は授乳させないように注意すること。[母乳中へ移行する。]

11. 小児等への投与

[錠100mg]
 低出生体重児、新生児、乳児、幼児又は小児に対する安全性は確立していない(使用経験が少ない)。
 [DS小児用5%]
 新生児、低出生体重児に対する安全性は確立していない。

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

1) テステープ反応を除くベネディクト試薬、フェーリング試薬による尿糖検査では偽陽性を呈することがあるので注意すること。
 2) 直接クームス試験陽性を呈することがあるので注意すること。

13. 過量投与

該当資料なし

VIII. 安全性(使用上の注意等)に関する項目

14. 適用上の注意

[錠100mg]

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。
(PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている)

[DS小児用5%]

- 1) **保存時**：懸濁液に調製後は冷所に保存し、2週間以内に使用すること。
- 2) **投与時**：使用时十分に振り混ぜること。

15. その他の注意

該当しない

16. その他

IX. 非臨床試験に関する項目

セフポドキシム プロキセチルの非臨床試験成績について以下のとおり報告されている。

1. 薬理試験

1) 薬効薬理試験(「VI. 薬効薬理に関する項目」参照)

2) 副次的薬理試験

該当資料なし

3) 安全性薬理試験

該当資料なし

4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

1) 単回投与毒性試験

LD₅₀ (mg/kg)¹⁸⁾

動物種	性	経口	皮下注	腹腔内
マウス	♀	8,000以上	10,000以上	2,535
ラット	♂♀	4,000以上	2,000以上	4,000以上

2) 反復投与毒性試験

慢性毒性試験

イヌへの最大無影響量：(経口)400mg/kg/日(6ヵ月) 特記すべき異常所見として軟便、嘔吐が見られた。¹⁸⁾

3) 生殖発生毒性試験

100mg/kg/dayをラット胎児の器官形成期に投与したとき催奇形性も胎児の死亡もみられなかった。¹⁷⁾

4) その他の特殊毒性

変異原性

エイムズ試験で代謝活性化を行った場合と行わない場合、染色体断裂試験、DNA合成試験、分裂時の組み換え、遺伝子変換、復帰変異原性、*in vivo*における小核試験を含む変異原性試験は全て陰性であった。¹⁷⁾

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

	規制区分
製剤	処方箋医薬品 ^{注)}
有効成分	該当しない

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

2. 有効期間又は使用期限

使用期限：3年

3. 貯法・保存条件

●セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」

室温保存

開封後は湿気を避けて保存すること

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

室温保存(気密容器)

開封後は湿気を避けて保存すること

4. 薬剤取扱い上の注意点

1) 薬局での取扱い上の留意点について

該当しない

2) 薬剤交付時の取扱いについて(患者等に留意すべき必須事項等)

くすりのしおり：有り

VIII. -14. 参照

3) 調剤時の留意点について

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」

VIII. -14. 参照

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装
- セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」
PTP：100錠(10錠×10)、500錠(10錠×50)
 - セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」
120包(1包1g・3連包)、100g(バラ)
7. 容器の材質
- セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」
PTP：[PTPシート]ポリ塩化ビニリデンフィルム、アルミ箔
[ピロー]アルミラミネートフィルム
 - セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」
分包：[本体]ペットニウム
[ピロー]アルミラミネートフィルム
バラ：[本体]ポリエチレン瓶、[内蓋]ポリエチレン
[キャップ]ポリエチレン、ポリプロピレン
8. 同一成分・同効薬
- 同一成分：バナシロップ100mg/ドライシロップ5%
同効薬：セフジニル、セフテラム ピボキシル等
9. 国際誕生年月日
該当しない
10. 製造販売承認年月日及び承認番号
- セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」
製造販売承認年月日：2013年12月3日(販売名変更)、承認番号：22500AMX01898000
バナセファン錠100mg(旧販売名)
製造販売承認年月日：2006年3月1日、承認番号：21800AMZ10154000
 - セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」
製造販売承認年月日：2013年12月3日(販売名変更)、承認番号：22500AMX01897000
バナセファンDS5%(旧販売名)
製造販売承認年月日：2006年3月1日、承認番号：21800AMZ10153000
11. 薬価基準収載年月日
- セフポドキシムプロキセチル錠100mg/DS小児用5%「サワイ」
2014年6月20日(販売名変更)
バナセファン錠100mg/DS5%(旧販売名)
2006年7月7日 経過措置期間終了：2015年3月31日

X. 管理的事項に関する項目

12. 効能又は効果追加、用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果、再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投薬期間制限医薬品に関する情報

本剤は、投薬(あるいは投与)期間に関する制限は定められていない。

16. 各種コード

品名	HOT番号	厚生労働省薬価基準 収載医薬品コード	レセプト電算 コード
セフトキシムプロキセチル 錠100mg「サワイ」	117476201	6132011F1012	621747601
セフトキシムプロキセチル DS小児用5%「サワイ」	117477901	6132011R1019	621747701

17. 保険給付上の注意

本剤は診療報酬上の後発医薬品である。

XI . 文 献

1. 引用文献

- 1) 日本薬局方解説書編集委員会編，第十七改正 日本薬局方解説書，廣川書店，2016，C-2794 -C-2800.
- 2) 日本公定書協会編，医療用医薬品 品質情報集，No. 19，薬事日報社，2004，p. 193.
- 3) 沢井製薬(株) 社内資料[加速試験]セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」
- 4) 沢井製薬(株) 社内資料[無包装下の安定性試験]セフポドキシムプロキセチル錠100mg 「サワイ」
- 5) 沢井製薬(株) 社内資料[加速試験]セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」
- 6) 沢井製薬(株) 社内資料[無包装下の安定性試験]セフポドキシムプロキセチルDS小児用 5%「サワイ」
- 7) 沢井製薬(株) 社内資料[懸濁後の安定性]セフポドキシムプロキセチルDS小児用5% 「サワイ」
- 8) 沢井製薬(株) 社内資料[配合変化試験成績]セフポドキシムプロキセチルDS小児用5% 「サワイ」
- 9) 前田彰他，診療と新薬，**43**(5)，504(2006).
- 10) 沢井製薬(株) 社内資料[溶出試験]セフポドキシムプロキセチル錠100mg「サワイ」
- 11) 沢井製薬(株) 社内資料[溶出試験]セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」
- 12) 厚生労働省健康局結核感染症課編：抗微生物薬適正使用の手引き
- 13) 大野竜三，改訂 抗菌剤ハンドブック，世界保健通信社，1992，p. 64-65.
- 14) 沢井製薬(株) 社内資料[生物学的同等性試験]セフポドキシムプロキセチル錠100mg 「サワイ」
- 15) 沢井製薬(株) 社内資料[生物学的同等性試験]セフポドキシムプロキセチルDS小児用5% 「サワイ」
- 16) Martindale : The Complete Drug Reference 35th edition, 2007, p. 207-208.
- 17) 社会薬学研究会監修，処方医薬品情報事典 PDR日本語編纂版，産業調査会事典出版 センター，1999，p. 1017-1025.
- 18) 薬事研究会編，規制医薬品事典，第5版，じほう，1992，p. 278.

2. その他の参考文献

XII. 参考資料

1. 主な外国での発売状況
2. 海外における臨床支援情報
- 該当資料なし

XIII. 備考

その他の関連資料

配合変化試験成績

●セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」⁸⁾

＜配合方法＞

セフポドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」(以下、当社製剤)と他剤を配合し、性状(外観、におい、湿潤性、流動性、再分散性、pH)を観察し、含量を測定した。

含量は配合直後のセフポドキシムプロキセチル量を100%とした。

A：当社製剤を配合薬剤(粉末製剤)と混合した。

B：当社製剤を精製水で溶解(懸濁)し、配合薬剤(シロップ剤)と混合した。

C：当社製剤を食品・飲料と混合した。

(保存条件) 温度：1～30℃(室温) 期間：7日間(A、B)又は24時間(C)

貯法：シャーレ内保存・散光下(A)

プラスチック容器・密栓・散光下(B、C)

流動性：「良好」、「少し悪化」、「悪化」、「固化」の4段階で評価した。

再分散性：試験液を入れた試験管を5秒間倒立させ、次いで5秒間正立する。この操作を1回として、懸濁液が均質に分散するまでの回数が9回までは良好、10回以上は不良とした。

※2014年6月作成の配合変化試験成績を掲載した。

セフドキシムプロキセチルDS小児用5%「サワイ」 配合変化試験成績

【粉末製剤との配合】

分類	配合薬剤			当社製剤 配合量	配合 方法	配合結果					
	品名 (配合前の外観、におい)	成分名	配合量			性状				含量 (%)	
						外観	におい	湿潤性	流動性		
解熱鎮痛剤	カロナール細粒20% 外観：淡橙色 におい：なし	アセトアミノフェン	1.25g	1g	A	配合直後	淡橙色	オレンジ様の芳香	なし	良い	100.0
						7日後	淡橙色	オレンジ様の芳香	なし	良い	102.1
消炎剤	ポントール散50% [†] [旧販売名：ポントール散] 外観：白色 におい：なし	メフェナム酸	0.13g	1g	A	配合直後	白色と淡橙色の混合色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	白色と淡橙色の混合色	特異な芳香	なし	良い	102.0
総合感冒剤	ロキソニン細粒10% [†] [旧販売名：ロキソニン細粒] 外観：ごくうすい紅色 におい：わずかに特異なにおい	ロキソプロフェンナトリウム水和物	0.3g	1g	A	配合直後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	98.5
総合感冒剤	ロキソプロフェンNa細粒10%「サワイ」 外観：ごくうすい紅色 におい：わずかに特異なにおい	ロキソプロフェンナトリウム水和物	0.3g	1g	A	配合直後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	98.8
総合感冒剤	幼児用PL配合顆粒 [†] [旧販売名：幼児用PL顆粒] 外観：うすいだいだい色 におい：わずかに特異な芳香	総合感冒剤	2g	1g	A	配合直後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	100.6
去たん剤	小児用ムコソルバンDS1.5% 外観：白色 におい：ヨーグルト様	アンブロキシオール塩酸塩	0.5g	1g	A	配合直後	白色と淡橙色の混合色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	白色と淡橙色の混合色	特異な芳香	なし	良い	102.1
鎮咳去痰剤	アスベリン散10% 外観：橙色 におい：特異な芳香	チベジジンヒベンズ酸塩	0.2g	1g	A	配合直後	橙色と淡橙色の混合色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	橙色と淡橙色の混合色	特異な芳香	なし	良い	101.6
止しゃ剤、整腸剤	ビオフェルミンR散 [†] [旧販売名：ビオフェルミンR] 外観：白色 におい：なし	耐性乳酸菌	0.5g	1g	A	配合直後	白色と淡橙色の混合色	オレンジ様の芳香	なし	良い	100.0
						7日後	白色と淡橙色の混合色	オレンジ様の芳香	なし	良い	101.5
健胃消化剤	ラックビー微粒N [†] [旧販売名：ラックビー微粒] 外観：白色 におい：なし	ビフィズス菌	1g	1g	A	配合直後	淡橙色	オレンジ様の芳香	なし	良い	100.0
						7日後	淡橙色	オレンジ様の芳香	なし	良い	99.5
健胃消化剤	S・M配合散 [†] [旧販売名：S・M散] 外観：淡灰色 におい：特異なにおい	タカザアスターゼ・生薬配合剤	0.65g	1g	A	配合直後	淡橙色と淡灰色の混合色	特異なにおい	なし	良い	100.0
						7日後	淡橙色と淡灰色の混合色	特異なにおい	なし	良い	100.1
制酸剤	重カマ「ヨシダ」 外観：白色 におい：なし	酸化マグネシウム	0.33g	1g	A	配合直後	白色と淡橙色の混合色	オレンジ様の芳香	なし	良い	100.0
						7日後	白色と淡橙色の混合色	なし	なし	良い	102.9
消化器官剤	ナウゼリンドライシロップ1% [†] [旧販売名：ナウゼリンドライシロップ] 外観：白色 におい：なし	ドンペリドン	0.5g	1g	A	配合直後	白色と淡橙色の混合色	オレンジ様の芳香	なし	良い	100.0
						7日後	白色と淡橙色の混合色	オレンジ様の芳香	なし	良い	100.1
消化器官剤	ドンペリドンDS小児用1%「サワイ」 外観：白色 におい：特異な芳香	ドンペリドン	0.5g	1g	A	配合直後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	100.6
消化器官剤	プリンペラン細粒2% [†] [旧販売名：プリンペラン細粒] 外観：白色 におい：なし	メトクロプラミド	0.38g	1g	A	配合直後	白色と淡橙色の混合色	オレンジ様の芳香	なし	良い	100.0
						7日後	白色と淡橙色の混合色	オレンジ様の芳香	なし	良い	101.2
混合ビタミン剤	シナール配合顆粒 [†] [旧販売名：シナール] 外観：淡黄色 におい：なし	アスコルビン酸・パントテン酸カルシウム	1.5g	1g	A	配合直後	淡黄色と淡橙色の混合色	オレンジ様の芳香	なし	良い	100.0
						7日後	淡黄色と淡橙色の混合色	オレンジ様の芳香	なし	良い	99.2

[†] 旧販売名の製剤で試験を実施した

分類	配合薬剤			当社製剤 配合量	配合 方法	配合結果					
	品名 (配合前の外観、におい)	成分名	配合量			性状				含量 (%)	
						外観	におい	湿潤性	流動性		
酵素製剤	レフトーゼ顆粒10% 外観：白色 におい：わずかに特異な芳香	リゾチーム塩酸塩	0.45g	1g	A	配合直後	白色と淡橙色の混合色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	白色と淡橙色の混合色	特異な芳香	なし	良い	99.3
抗ヒスタミン剤	タベジール散0.1% [†] [旧販売名：タベジール散] 外観：白色 におい：特異な芳香	クレマスチンフマル酸塩	0.5g	1g	A	配合直後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	99.7
抗ヒスタミン剤	ペリアクチン散1% 外観：白色 におい：特異な芳香	シプロヘプタジン塩酸塩水和物	0.2g	1g	A	配合直後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	100.0
						7日後	淡橙色	特異な芳香	なし	良い	99.8

† 旧販売名の製剤で試験を実施した

【シロップ剤との配合】

分類	配合薬剤			当社製剤 配合量	配合 方法	配合結果					
	品名 (配合前の外観、におい、pH)	成分名	配合量			性状				含量 (%)	
						外観	におい	再分散性	pH		
解熱鎮痛消炎剤	カロナールシロップ2% 外観：橙色澄明 におい：オレンジ様 pH：4.27	アセトアミノフェン	12.5mL	1g /水5mL	B	配合直後	橙白色懸濁液	オレンジ様の芳香	良好	4.94	100.0
						7日後	橙白色沈殿物形成	オレンジ様の芳香	良好	4.96	94.7
去たん剤	ムコダインシロップ5% 外観：褐色澄明 におい：特異な芳香 pH：6.33	L-カルボシステイン	5mL	1g /水5mL	B	配合直後	淡橙白色懸濁液	特異な芳香	良好	5.27	100.0
						7日後	淡橙色澄明液、 橙白色沈殿物形成	特異な芳香	良好	5.24	98.6
鎮咳去痰剤	アスベリンシロップ0.5% 外観：白色懸濁 におい：特異な芳香 pH：4.77	チベピジンヒベンズ酸塩	4mL	1g /水5mL	B	配合直後	淡橙色懸濁液	特異な芳香	良好	4.73	100.0
						7日後	橙白色沈殿物形成	特異な芳香	良好	4.73	102.1
気管支拡張剤	メプチンシロップ5 μ g/mL 外観：無色澄明 におい：オレンジ様 pH：4.00	プロカテロール塩酸塩水和物	5mL	1g /水5mL	B	配合直後	淡橙色懸濁液	オレンジ様の芳香	良好	4.30	100.0
						7日後	淡橙白色懸濁液、 橙白色沈殿物形成	オレンジ様の芳香	不良(25回)	4.31	100.4
酵素製剤	レフトーゼシロップ0.5% [†] [旧販売名：レフトーゼシロップ] 外観：無色澄明 におい：なし pH：3.50	リゾチーム塩酸塩	8mL	1g /水5mL	B	配合直後	淡橙色懸濁液	わずかに特異な芳香	良好	4.93	100.0
						7日後	淡橙白色懸濁液、 橙白色沈殿物形成	わずかに特異な芳香	良好	4.82	106.1
抗ヒスタミン剤	ペリアクチンシロップ0.04% [†] [旧販売名：ペリアクチンシロップ] 外観：微黄色澄明 におい：特異な芳香 pH：3.50	シプロヘプタジン塩酸塩水和物	5mL	1g /水5mL	B	配合直後	淡橙色懸濁液	特異な芳香	良好	4.62	100.0
						7日後	淡橙白色懸濁液、 橙白色沈殿物形成	特異な芳香	良好	4.62	98.7

† 旧販売名の製剤で試験を実施した

【食品・飲料との配合】

分類	配合薬剤		当社製剤 配合量	配合 方法	配合結果				
	品名 (配合前の外観、におい)	配合量			性状			含量 (%)	
					外観	におい	再分散性		
食	サントリー南アルプス天然水 外 観：無色澄明液 におい：なし	25mL	1 g	C	配合直後	淡橙色懸濁液	特異な芳香	良好	100.0
					24時間後	淡橙色懸濁液、白色沈殿物形成	特異な芳香	良好	100.7
	天然ミネラル むぎ茶 外 観：褐色澄明液 におい：むぎ茶のにおい	25mL	1 g	C	配合直後	褐白色懸濁液	むぎ茶のにおい	良好	100.0
					24時間後	褐白色懸濁液、白色沈殿物形成	むぎ茶のにおい	良好	98.9
	カルピスウォーター 外 観：乳白色懸濁液 におい：カルピスのにおい	25mL	1 g	C	配合直後	淡橙色懸濁液	カルピスのにおい	良好	100.0
					24時間後	淡橙色懸濁液、白色沈殿物形成	カルピスのにおい	良好	100.0
バンホーテンミルクココア 外 観：褐白色懸濁液 におい：ココアのにおい	25mL	1 g	C	配合直後	褐白色懸濁液	ココアのにおい	良好	100.0	
				24時間後	褐白色懸濁液	ココアのにおい	良好	94.8	
品	ピーンスターク ポカリスエット 外 観：わずかに白濁液 におい：ポカリスエットのにおい	25mL	1 g	C	配合直後	淡橙色懸濁液	ポカリスエットのにおい	良好	100.0
					24時間後	淡橙色懸濁液、白色沈殿物形成	ポカリスエットのにおい	良好	100.1
	ビジョンベビー飲料 アップル&ウオーター 外 観：黄金色澄明液 におい：リンゴ様のにおい	25mL	1 g	C	配合直後	淡橙白色懸濁液	特異な芳香	良好	100.0
					24時間後	淡橙白色懸濁液、白色沈殿物形成	特異な芳香	良好	99.1
	Doleオレンジジュース100% 外 観：橙色懸濁液 におい：オレンジ様のにおい	25mL	1 g	C	配合直後	橙白色懸濁液	オレンジ様のにおい	良好	100.0
					24時間後	橙白色懸濁液、白色沈殿物形成	オレンジ様のにおい	良好	98.5
飲	明治おいしい牛乳 外 観：白色懸濁液 におい：牛乳のにおい	25mL	1 g	C	配合直後	淡橙白色懸濁液	特異な芳香	良好	100.0
					6時間後	淡橙白色懸濁液、白色沈殿物形成	特異な芳香	良好	94.6
					24時間後	淡橙白色懸濁液、白色沈殿物形成	特異な芳香	良好	82.6
グリコブッチンプリン 外 観：黄白色と茶色の不透明なゲル状 におい：プリンのにおい	25g	1 g	C	配合直後	白みがかった黄褐色	プリンのにおい	-	100.0	
				24時間後	白みがかった黄褐色	プリンのにおい	-	95.0	
ハーゲンダッツバニラアイスクリーム 外 観：淡黄白色懸濁液 におい：バニラ様のにおい	25g	1 g	C	配合直後	淡黄白色懸濁液	バニラ様のにおい	-	100.0	
				1時間後	淡黄白色懸濁液、わずかに白色沈殿物形成	バニラ様のにおい	-	84.7	
				24時間後	わずかに白色沈殿物形成	バニラ様のにおい	-	47.5	
料	Sunkistオレンジゼリー 外 観：橙色 におい：オレンジ様のにおい	25g	1 g	C	配合直後	橙白色のゲル状物質と橙色固形物の混合物	オレンジ様のにおい	-	100.0
					24時間後	橙白色のゲル状物質と橙色固形物の混合物	オレンジ様のにおい	-	98.3
	明治ブルガリアヨーグルトプレーン 外 観：白色不透明 におい：ヨーグルトのにおい	25g	1 g	C	配合直後	淡橙色の粘稠な懸濁液	ヨーグルトのにおい	-	100.0
					24時間後	淡橙色の粘稠な懸濁液	ヨーグルトのにおい	-	94.6
	おくすり飲めたね(嚥下補助ゼリー)いちご味 外 観：赤白色不透明なゲル状 におい：いちご様のにおい	25g	1 g	C	配合直後	淡橙色及び赤白色不透明なゲル状混合物	いちご様のにおい	-	100.0
					24時間後	淡橙色及び赤白色不透明なゲル状混合物	いちご様のにおい	-	99.2

